



三国志



支援係長 阿部 秀人

令和5.12月 402号
【つくし園】
〒791-8041
松山市北吉田町
77-34
TEL(089)951-5331
FAX(089)951-5348

先日、実家に帰省していた時に甥が読んでいた本をふと覗き込むと三国志の漫画でした。20年以上前に私が読んでいたものと同じで、懐かしさから手に取ってみると面白くてページをめくる手が止まらず、気が付くとそこにあつた本を全部読んでいました。

三国志とは、400年も続いた漢の政治に不満をもった民衆が太平道の教祖の張角に救いを求めて集まり、反乱を起こす黄巾の乱から始まり、司馬炎の晋によって中国を統一するまでの約100年間の事を言います。

100年間で個性豊かな登場人物がいますが、私の一押しはありきたりではありますが、蜀という国の劉備玄徳です。理由は見た漫画が、主に劉備目線で書かれていたことで、その人柄が好きになった要因です。また、義を重んじる姿勢が優秀な人材の共感を得て集まり、苦難を乗り越えて最終的には蜀の国を建国します。劉備やその配下は没するまでに胸を熱くすることを多く行っていますので、少しお話をさせて頂きます。

まずはなんと言っても関羽と張飛と義兄弟となる桃園の誓いです。漫画の引用ですが、桃園の誓いのセリフが胸熱です。

「我ら生まれた日は違えども死する時は同じ日同じ時を願わん」素敵ですね。次に、大国である魏の曹操とは幾度も戦っており、その一つである長坂の戦いです。劉備軍は迫りくる曹操軍から逃げているのですが、追いつかれてしまいます。そこで張飛が殿を務め仁王立ちで曹操軍を足止めしたり、曹操軍に連れ去られた劉備の子供を曹操軍の中に飛び込んで助けた趙雲の活躍が胸を熱くするポイントになります。映画にもなった赤壁の戦い等、まだまだ胸を熱くする部分があります、書ききれませんが今回はこの辺で失礼します。

きっかけは甥が見ていた漫画でしたが、若かりし頃のワクワク感が少し蘇った一日でした。

12月の開園日



日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

- 16日土曜は開園日です。
- 30日土曜日～1月3日の間は年末年始休暇で休園とさせていただきます。



12月の行事予定

- 11日(月)・・・誕生会
- 14日(木)・・・もちつき大会
- 22日(金)・・・クリスマス会
- 27日(水)・・・避難訓練
- 29日(金)・・・忘年会(つくし園内)



工事が始まりました

11月中旬。つくし園作業棟西側の職員駐車場だった場所に重機が入り、アスファルトを剥がしていきます。利用者の方は、何が始まったのかと興味津々。

実は、法人本部の新築工事が始まったのです。34年前、法人最初の事業所『つくし園』が開設されてから法人事務局はつくし園内にありましたが、法人内の事業所も増え、本部が独立することとなりました。完成は令和6年3月中の予定です。しばらく車や人の出入り、工事の音など気になるかもしれませんが、ご理解、ご協力をお願いいたします。



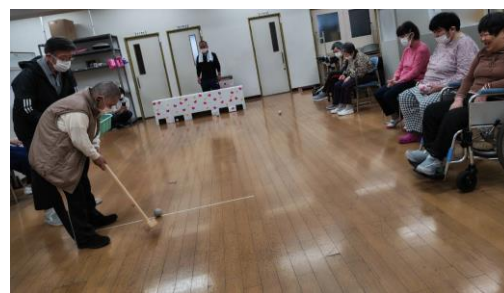


いもたきパーティー

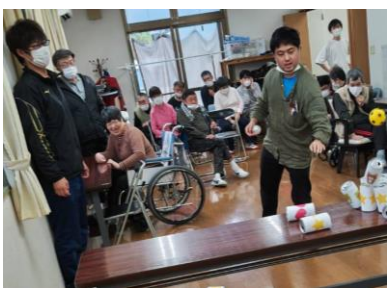


がつとう かきんようび 11月10日金曜日。いもたきパーティーを開催しました。つくし園の行事としては珍しく雨。園庭で開催予定が室内での実施となりました。

それでもみなさん、嬉しそうなお様子で席に着かれました。席には創作活動のメンバーが作ってくれたおてせい 手製の席札が。メニューは調理員手作りの『いもたき・からあげ』支援者が握った『おにぎり』そして『みかん』です。いもたきは「おかわりどうぞ。」と、いうことでたっぷり。みなさん、お腹いっぱいになって満足そうなお様子でした。



たっぷり食べた後は身体をしっかりと動かしましょう！と、いうことで『缶倒し』と『ゲートボールゲーム』にチャレンジ。どちらもみなさん、熱中です。周りで見ている方や職員も大歓声。派手に鳴る空き缶の音と手ごたえにストレス解消！最後はみんなでダンス。映像に合わせて元気に身体を動かすのですが、これがなかなかハードです。これでいもたきのカロリーはすっかり消費された…気になっておきましょう。

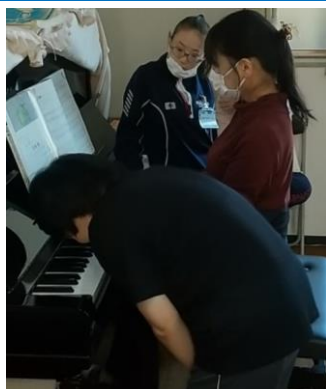


いけ～！
ねらいを
さだめて！



実習生が来ました♪

11月中に県立みなら特別支援学校から高等部3年の男子生徒さん、愛媛大学教育学部附属特別支援学校から高等部1年の女子生徒さんが実習に来られました。お2人ともご自分の持てる力をしっかりと発揮して実習に取り組みました。弟か妹を見守るような優しいまなざしを向けておられる利用者の方もおられました。



文責： 竹野寛・小松宴江